

新入試 外部検定 「成績提供システム」の概要

ID の申込は高 2 の 11 月スタート予定！

旺文社 教育情報センター 2019 年 1 月 11 日

1 月 7 日、大学入試センターは「大学入試英語成績提供システム」の概要を公表した。現在の高 1 が該当する入試改革。最大の目玉が外部検定(外検)だ。その成績管理を担う成績提供システムの運用が明らかになることで、受験生の外検利用の流れが見えてくる。

＜今回の発表の前提 –これまでに発表されていた事項–＞

【成績提供システム】

受験生が受けた外検の成績を一元管理し、入試利用する大学へ提供するシステム。今の高 1 が高 3 になる 2020 年度実施の外検から大学入試センターが運用する。受験生の外検の成績は、「検定団体が入試センターへ送付 ⇒ 入試センターが各外検を集約 ⇒ 外検利用する大学へ送付」される。

もともと共通テストの枠組みの中で構想されたが、各大学の独自入試、総合型選抜、学校推薦型選抜(現 ; AO、推薦)でも利用可能となった。

これまでの発表では、外検を利用する受験生一人ひとりに共通 ID をふり、各外検の成績を個人に紐づけて管理していくところまで明らかになっていた。

【「高 3 で 2 回まで」ルール】

成績提供システムには、高 3 の 4～12 月に受けた 2 回までの認定試験の成績が登録できる(「高 3 で 2 回まで」ルール)(既卒生も受験する年度の 4～12 月)。

2018 年 8 月に例外措置が公表され、「既卒生、病気等で受検できなかった場合 ⇒ 前年度の成績も可」「高 2 で CEFR B2 (≒英検準 1 級) 取得者で“経済的に困難”または“離島・へき地に居住または通学” ⇒ 高 2 の成績も可」などとされた。

※新入試以降、すべての外検入試に成績提供システムが適用されるわけではないので注意。

大学は外検入試を行う場合でも、システムを使うかどうかの判断は自由。大学が志願者から成績を独自回収するのであれば、システムに関わる「共通 ID」も「認定試験」も「高 3 で 2 回までルール」も関係ない。

あえてシステムを使わずに(あるいは併用で)高 2 の成績や、認定試験以外の外検も可とする大学が出てくる可能性もある。

■ ■公表された成績提供システムの概要■ ■

※以下、現時点での検討段階のもの。すべて「予定」であることに注意。

※「高3で2回まで」ルール例外措置への対応は今後決定。

●共通 ID

(1) ID の申込・発行

- ・受験生の ID 申込は、現役生は高校まとめ、既卒生等は直接入試センターへ（センター出願と同様）。現役生は在学証明書（高校が一括証明）、既卒生等は住民票等が必要。
- ・ID 申込は無料。
- ・ID 配付は、現役生は高校経由。
- ・来年度、高2の11月から申込スタート、2～3週間受付、12～1月頃に ID 配付（⇒ 外検受検は高3の4月からスタート）。
- ・上記は入試センターの集中処理期間。申込は高3の9月まで随時可能（発行は10月まで）。
- ・既卒生等のスケジュールも同様。受験前年度の11月から申込。
- ・IDの有効期間は2年間（2年度の受験が可能）。そのため、現役で取得しておけば1浪時は再取得の必要はない。
- ・来年度に限り、高2だけでなく高3（新入試初年度の1浪生に該当）も学校一括申込を可とする措置を検討中。時期等は今後決定。
- ・入試センターは高校に対し、「申込案内」「とりまとめ要領」を作成。来年度7月の共通テスト説明協議会（高校対象）で配付。

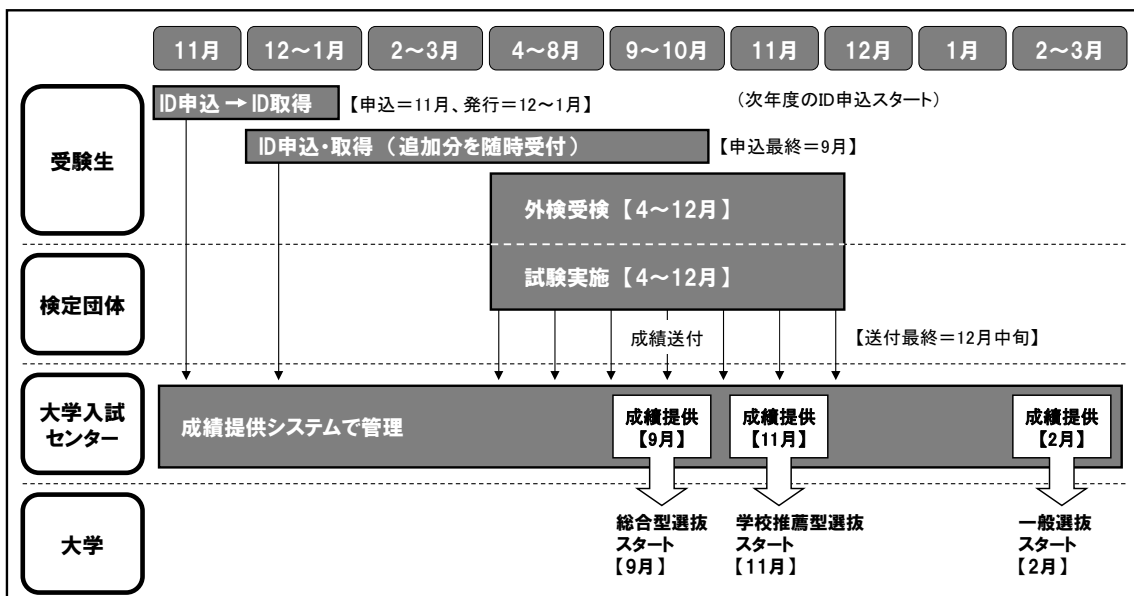
(2) ID の利用

- ・受験生は、外検を受検申込する際に ID を利用。これにより受験生は成績を成績提供システムに登録する意思表示をする。「高3で2回まで」ルールは、この成績登録が2回分までということ。
※外検自体は何度でも受けられる。ID を使ってシステム登録できるのが2回まで。また、この意志表示は受検申込の段階なので、外検を何度も受けて、結果をみて、出来の良い2回を選ぶ、ということとはできない。
- ・受検をしてから ID の利用を決めたり、取り消したりすることはできない。
- ・3回以上 ID を利用して受検した場合、最初の2回が有効。外検の成績自体は入試センターへ行くが、入試センターが試験日（複数日の場合は初日）の早い2回を登録。
- ・以下の場合は ID を利用して受検しても、「高3で2回まで」の件数に含めない。
 - (1) 外検の全部を受検しなかった場合（一部でも受検した場合は件数に含める）。
 - (2) 自然災害や交通機関の停止等で試験自体が成り立たなかった場合。
- ・ID 発行後に住所、氏名等の変更がある場合、受験生は届出を行う。
- ・受験生からの問い合わせ窓口として、コールセンターを設置（来年度秋頃）。
- ・ID は共通テストでも活用（出願時の重複項目の省略、共通成績とのマッチング等）。

●外検の成績の扱い

- ・検定団体は入試センターへ以下の成績を送付。＜スコア／CEFR／級などの合否判定のある検定は合否＞
- ・「検定団体 ⇒ 入試センター」の成績送付は4月以降、12月中旬が最終。
- ・「入試センター ⇒ 大学」の成績提供は年数回。＜例；9月、11月、2月＞
 ※新入試から、各入試の実施は「総合型選抜＝9月」「学校推薦型選抜＝11月」「一般選抜＝2月」以降。
- ・大学が共通テストを利用する場合、共テの成績は外検とセットで提供(上記2月提供分)。
- ・検定団体と大学は、いつ実施の外検が、いつの成績提供に間に合い、いつの入試で利用可能なのかを明らかにする。
- ・入試センターは大学に対し、「成績提供要領」を作成。来年度12月の連絡協議会(大学対象)で配付。

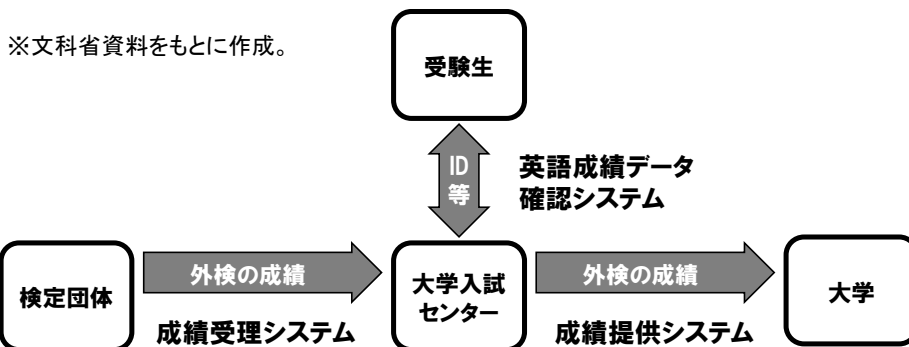
成績提供システム 運用スケジュール(予定)



※文科省資料をもとに作成。 時期等はすべて現段階の予定であり、今後変更がありうる。

●成績提供システムの構成

成績提供システムは、以下の3つのシステムにより構成(すべて仮称)。



※文科省資料をもとに作成。

- ・「英語成績データ確認システム（受験生⇄入試センター）」は、受験生情報（氏名、住所、ID 等）を管理。ID 発行のほか、受験生は一定期間、受検した外検名や試験回数等の確認、高校は生徒の外検の受検状況の把握が可能。
- ・「成績提供システム（大学⇄入試センター）」は、センター試験の成績を大学に提供している既存のシステムを改修。

■■ 解説 ■■

●成績提供システムの1年の流れ ※以下、時期はすべて予定。

ID の申込は高 2 の 11 月から。高 2 となると、志望校で外検が必要なのかわからない、それ以前に志望校が決まっていない、大学進学さえも決まっていない高校生もいる時期だ。受験生や高校は「とりあえず申し込んでおく」という動きになるだろう。申込自体は 9 月まで受け付けるので、あとで必要になっても心配はない。ただし外検の受検申込には ID が必要なもので、早めに取得しておいた方がよい。

成績提供システムに登録できる外検は、高 3（受験する年度）の 4 月受検からスタートする。しかし 4 月の段階で要項を発表している大学は少ない。万が一「4 月に 2 回受検 ⇒ 志望校が要項発表 ⇒ 受けた外検が出願資格に入っていない」となった場合、これは受験生の自己責任で済まされるのか。そうならないためにも、なるべく早い段階で、大学から入試内容が公表されていなければならない。おおまかな予告レベルではなく、詳細な要項レベルのものが求められる。

検定団体が入試センターへ成績を送るのは、12 月中旬シメ。検定団体はこれに間に合うように採点を終わらせなければならない。外検受検は 4～12 月とされているが（成績提供システムに登録する場合）、12 月実施の試験はあったとしても初旬までだろう。

●新入試初年度の1浪生はどうなる

実は新入試スタート前年の高 3 が問題だ（今年度の 4 月の高 3）。

- ・来年度の高 3 は、浪人すると新入試。
- ・浪人してから外検を受けるのなら問題はない。
- ・ただし、既卒生は例外措置で「前年度の成績も可」。
- ・「念のために高 3 で外検を取っておきたい」と考えるのであれば…

↓

【問題点 1】高 3 スタート時にはまだ成績提供システムが稼動していない。

【問題点 2】新入試の前年で、各検定団体の実施体制が完全には整っていない。

問題点 1 は、共通 ID 取得前の外検をどう扱うか。これは今後、入試センターが決めるだ

ろう。より大きなのは問題点 2 だ。今度の 4 月以降、どの外検を受けたらいいか。

検定団体は、新入試がスタートする 2020 年度へ向けて体制を整えているが、「既卒生は前年度の成績も可」ということを考えれば、2019 年度、つまり今度の 4 月の実施分から対応していくことが理想だ。

英検の場合、従来型は認定試験に入っていないので、成績提供システムに登録できない。認定された 3 方式だと、「S-Interview」は来年度実施せず、「1 day」は高 2 限定（再来年度から高 3）、そうなると来年度の高 3 が受けられる英検の認定試験は「CBT（コンピュータで実施の試験）」のみとなる。

英検以外の認定試験はどうか。学校実施の場合は注意が必要だ。認定試験の要件に「自校の教員が監督・採点に関わるのは不可」というのがあるためだ。

これまでの外検入試を見ると、日本の機関が作成する「国産の外検」が多くの受験生を集めている。それにさらに「来年度の高 3 が受けられる外検で」「認定試験で」「公開会場で（学校実施ではなく）」「PBT で（ペーパーで実施の試験）」と条件をつけていくと、外検は相当限られる。TEAP が挙げられるが、検定料や試験地など、英検ほど受けやすくない。

また、どの外検を受けようとも結局、翌々年度（新入試初年度）の志望校の入試でその外検が利用可能なのかという問題がここでも付きまとう。

入試改革の準備は 2020 年度までに整えばよいわけではない。ID の申込まで 1 年を切った。成績提供システムの例外措置は今度の 4 月受検から該当する。入試改革はもう本当に目の前まで迫ってきている。

外検に関しては、入試センターによる成績提供システムの運用方法、検定団体による試験実施概要、大学による新入試の内容詳細、これら 3 者からの情報が早急に公表されていくことを望む。